

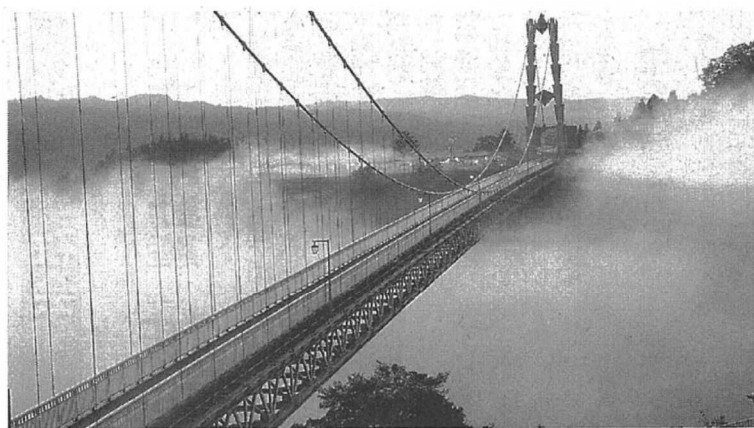
地域再生とまちづくり

—各都市が目指すものは

<第41回>

深刻な少子・高齢化

常陸太田市は、茨城県の北東部にあつて県都水戸から約20キロ、東京から約120キロ圏に位置する。古くは、縄文・弥生時代から地域の中心として栄え、平安時代の末から約470年間は常陸の豪族佐竹氏の本拠地として繁栄した。



常陸太田市の観光資源。④本州一の長さを誇る「竜神大吊橋」 ⑤⑥西山公園 ⑦⑧鍋足山からの眺め（写真はいずれも常陸太田市提供）



自然と歴史、文化生かす 農業の体験型観光施設も

魅力ひたち交流ネットワーク計画」と題し、15年度から5カ年計画で地域活性化と産業振興を目指している。具体的には、道路交通網の整備により、地域内に点在する自然、文化、観光、居住等の主要拠点を移動の円滑化を図り、観光客数の増加や地域住民相互の交流を促進し、魅力ある地域の再生を図ろうとするものである。

常陸太田市には水田地帯、巨峰・梨などの果樹園や「常陸秋そば」などを栽培する畑作地域、常陸牛や乳製品などの畜産業・酪農業が盛んな山間地域がある。

（日本不動産研究所水戸支所、不動産鑑定士・植野裕高）

茨城県常陸太田市・県北地域の核を目指して

江戸時代に入ると、徳川光圀が晩年を過ごした西山荘や水戸徳川家歴代藩主の墓所である瑞草山などに代表されるように水戸藩領地として発展し、明治時代には郡役所の設置や棚倉街道の商業中心都市

問題となっており、常陸太田市の地価の推移をみると、長引く地方経済の衰退を背景に大幅な下落が続いている。地方経済の衰退と対をなすように少子・高齢化が深刻な

果たしているものの、常陸太田市の地価の推移をみると、長引く地方経済の衰退を背景に大幅な下落が続いている。地方経済の衰退と対をなすように少子・高齢化が深刻な

「自然」と「歴史・文化」を軸とした中、茨城県、常陸太田市が主体となり、隣接市である日立市、高萩市を含む全域を対象に地域再生計画が策定された。

魅力ひたち交流ネットワーク

また、常陸太田市には本州一の長さを誇る「竜神大吊橋」、関東最大級の牧場「里美牧場」、樹齢約900年の「真弓神社の爺杉」などの観光名所があり、その他「常陸秋そばフェスティバル」「西山砂登山マラソン大会」といった知名度が高く、かつ市民からも親しまれているイベントなども開催されている。

として繁栄してきた。

近年では、北部は阿武隈山

系の丘陵地、南部は平たん

町並みや水田地帯が広がり、

農業・林業を主な産業として

周辺農村地域の中心的役割を

果たしているものの、常陸太

田市の地価の推移をみると、

長引く地方経済の衰退を背景

に大幅な下落が続いている。

地方経済の衰退と対をなす

ように少子・高齢化が深刻な

問題となっており、常陸太田

市の16年10月時点の高齢化率

35.0%は、茨城県平均27.3

%と比較しても大幅に高く、

地域活性化に繋がる施策が喫

緊の課題となっている。

魅力ひたち交流ネットワーク

また、常陸太田市には本州

一の長さを誇る「竜神大吊

橋」、関東最大級の牧場「里

美牧場」、樹齢約900年の

「真弓神社の爺杉」などの観

光名所があり、その他「常陸

秋そばフェスティバル」「西

山砂登山マラソン大会」と

いった知名度が高く、かつ

市民からも親しまれているイ

ベントなども開催されている。

さらに、最近では都市部の

人が畑や田んぼを借り受け、

一連の農業体験ができる常陸

秋そばやコシヒカリのオーナ

ー制度、古い農家住宅へ宿泊

し田舎のスローライフを体験

できる古民家体験などといっ

た、グリーン・ツーリズム体

験型の観光施設も実施されて

いる。

少子・高齢化は、当地域に

限らず地方では至る所で抱え

る問題であり、かつ時間の経

過とともに深刻化していく。

常陸太田市で実施されている

試みが実を結びよう願いな

が今後も動きを注視してい

きたい。